

並行在来線（長万部・小樽間）のバス転換が決まりました

現在、JR北海道が運行している函館線のうち、北海道新幹線が札幌まで延伸した際に新幹線と並行して運行される在来線の区間（函館・小樽間）は、沿線自治体の同意を得たうえで経営分離することになっているため、沿線自治体は北海道の更なる発展のため、平成24年にJR北海道の経営分離に同意しました。

また、経営分離後の地域交通の協議のため、函館・小樽間の沿線15自治体と北海道で「北海道新幹線並行在来線対策協議会」を設置し、本町は、長万部・小樽間の沿線9自治体と北海道で構成する後志ブロック会議で協議を進めてきました。

本町では、小樽・札幌方面の通勤・通学が多く、鉄道は町民生活に欠くことのできない交通手段となっています。また、余市・小樽間は鉄道の特性が発揮できるといわれている輸送密度2,000人を超えており、大量輸送を迅速に行うには鉄道が有利であり、鉄道存続の立場で協議を重ねてきました。

後志ブロック会議では、長万部町から仁木町までの沿線自治体は「バス方式」の方向性を示し、「長万部・余市間」はバス転換が決定しました。「余市・小樽間」については小樽市、余市町、北海道の3者で個別に協議を進めてきましたが、

鉄道存続にあたっては、

- ・巨額な初期投資や将来にわたり多額の運行経費が見込まれること
- ・沿線人口の減少、観光入込客数の増加や多駅・多頻度化、あらゆる手立てを講じたとしても大幅な収支改善は見込めないこと
- ・鉄道の運行経費の国の支援制度がないこと
- ・災害時における貨物の代替ルートとしての活用が見込めないこと
- ・鉄道を廃止した場合の施設撤去費や災害発生時の復旧費といった潜在的なリスクなどを考慮すると、将来にわたって、小樽市、余市町、北海道の3者で鉄道を運行することは困難であること

バス運行にあたっては、

- ・バスダイヤの改正や増便などにより、利用の集中する時間帯を含め、現在鉄道を利用している方の移動についても確保できる見通しであること

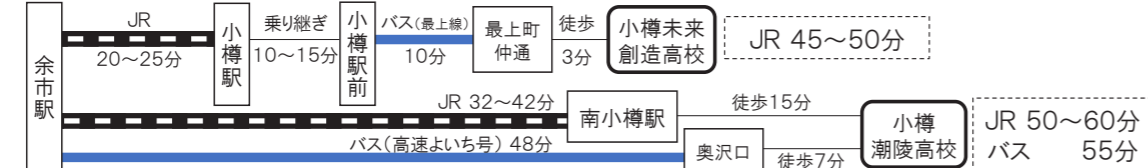
「鉄道方式」、「バス方式」のそれぞれの利便性や地域負担等を比較し、未来志向で総合的に判断した結果、今後、バスを中心とした新たな交通ネットワークの構築に向けて、3者で検討を進めていくことで合意し、後志ブロック会議において、「長万部・小樽間」はバス転換とすることが確認されました。

今後は、バスを中心とした新たな交通ネットワークの構築に向けて、北海道、沿線自治体、バス事業者等としっかりと協議していきます。

利便性を高める新ルートの検討（余市～塩谷～小樽市内の高校）※第10回後志ブロック会議資料より抜粋



【現 状】余市から小樽未来創造高校・小樽潮陵高校への所要時間



【塩谷・最上経由ルート】余市から小樽未来創造高校・小樽潮陵高校への所要時間



【並行在来線（長万部・小樽間）の方向性決定までの主な検討経過】

平成24年 沿線自治体が経営分離に同意、北海道新幹線札幌延伸正式決定
北海道新幹線並行在来線対策協議会を設置し、協議を開始

平成24年～平成28年 第1回～第5回後志ブロック会議

- ・函館線（函館 - 小樽間）の旅客流動調査、将来需要予測調査分析
- ・先行県の並行在来線の状況、国の支援制度確認
- ・開業5年前程度で方向性決定を想定

令和元年 第6回後志ブロック会議

- ・会議資料としてJR北海道より、長万部 - 小樽間の輸送密度等の情報、今後20年間の大規模修繕・更新費試算の情報提供あり
- ・余市町長がJR北海道に対し、黒字となる利用者数について質問、「2,000人以上が鉄道の特性が発揮できる線区」との回答あり
- ・開業5年前を待たず協議会として方向性を決定していく旨確認

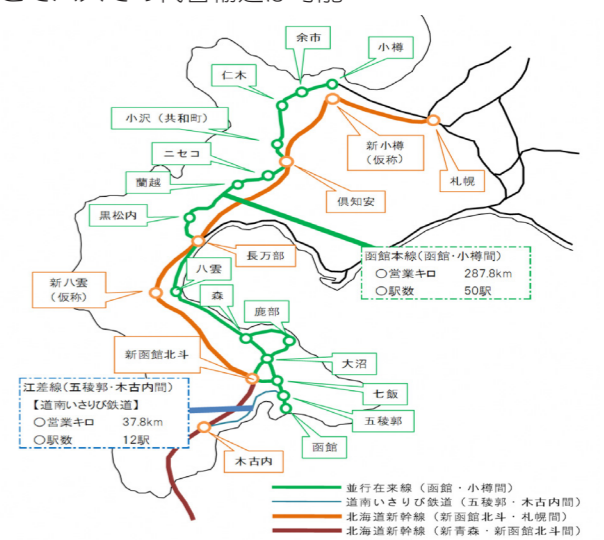
令和2年～令和3年 第7回～第10回後志ブロック会議

- ・旅客流動調査、将来需要予測、収支予測調査結果公表
- ・収支改善策やバスルート等について検討、結果公表
- ・次回の後志ブロック会議で各沿線自治体の方向性を確認

令和3年11月19日 並行在来線に関する住民説明会開催（39名参加）

令和3年12月27日 第11回後志ブロック会議

- ・関係機関からの情報提供
 - ①国土交通省：経営分離後の鉄道経費への支援制度はない
 - ②JR北海道：経営分離を見直す考えはない
 - ③JR貨物：災害時の代替ルートとして函館線（長万部・小樽間）を活用することは現状では課題が多い。運行区間の折り返し運転と代行トラック等の組み合わせを優先的に検討する
 - ④北海道中央バス：多客時間帯のダイヤを工夫することでバスでの代替輸送は可能
- ・沿線自治体の方向性
 - ①長万部町：「バス方式」
 - ②黒松内町：保留
 - ③蘭越町：保留
 - ④二セコ町：保留
 - ⑤倶知安町：「バス方式」
 - ⑥共和町：「バス方式」
 - ⑦仁木町：「バス方式」
 - ⑧余市町：余市小樽間「鉄道方式」
 - ⑨小樽市：保留



令和4年2月3日 第12回後志ブロック会議

- ・沿線自治体（前回保留）の方向性
 - ②黒松内町：「バス方式」
 - ③蘭越町：「バス方式」
 - ④二セコ町：「バス方式」
 - ⑨小樽市：保留
 ⇒長万部・余市間のバス転換の方向性が決定、余市・小樽間は個別協議

令和4年3月26日 余市・小樽間個別協議（小樽市・余市町・北海道）
余市・小樽間について、「バス方式」の方向性で合意

令和4年3月27日 第13回後志ブロック会議
⇒長万部・小樽間のバス転換の方向性決定

問合せ 企画政策課 企画グループ ☎21-2117